

平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）（H17-子ども-004）  
子どものライフステージにおける社会的養護サービスのあり方に関する研究（主任研究者：庄司順一）

## 分担研究報告 2

# 愛着障害の視点からの被虐待児に対する援助・治療プログラムの開発

分担研究者 藤岡 孝志

## I 目的

虐待等で愛着形成に障害をおった子どもと、その養育支援を行なう大人（施設職員、里親等）との間の愛着形成をはかり、促進するためのプログラムを作成することを目的として研究を行なった。

## II 研究方法

平成 17 年度においては、プログラム作成の準備として、プログラムの対象となる①施設職員、②児童相談所の養育家庭支援職員、③養育家庭、に対して、プログラムに対するニーズと子どもの養育における困難、子どもとの愛着関係を深める方法についてのヒアリングを行なった。また、内外の文献を収集し、愛着形成をはかるプログラムについて、文献的考察を行なった。

それらを踏まえ、平成 18 年度は、具体的なプログラムを作成し、それらを実際のケースに適用することを前提に、更なるヒアリングを行った。

今年度の研究の概要は、

### 1. プログラム検討の会議

### 2. ヒアリング

- ・ 1-1 **Evergreen Psychotherapy Center (T.M.Levy&M.Orlans)**
- ・ 1-2 ヘネシー澄子博士・臨床ソーシャルワーカー
- ・ 2 民間虐待防止団体
- ・ 3 子ども家庭支援センター
- ・ 4 児童養護施設
- ・ 5 児童相談所

### 3. プログラム作成

### 4. プログラムの実施（事例研究）とそれに伴うプログラムの再検討

### 5. プログラムの提案・考察

## III プログラムの検討結果

プログラムの検討結果を以下に示す。

## 1) 愛着形成に障害をおった子どもと養育者との関係形成を促進するプログラム

愛着形成に障害をおった子どもと養育者との関係形成を促進する試行プログラムを今後作成した。これについては、現在も検討中であるが、現在の段階でのプログラムを以下に提示する。児童養護施設における愛着形成プログラム、子育て支援における愛着形成プログラム、里親支援における愛着形成プログラム、修復的愛着療法のプロセス分析、夫婦の対する愛着コミュニケーション訓練プログラムの開発の5プログラムである。なお、プログラムの内容は、①子どもの状態のアセスメント、②養育者へのペアレンティング技法・心理教育、③養育者と子どものそれぞれが抱える愛着上の課題及び愛着の修復へのアプローチ、④相互の愛着関係の深化を図るアプローチ、⑤養育者のチーム、養育家庭のパートナー内での連携の支援、などでの視点を踏まえたものとして構成されている。

## 2) 児童養護施設における愛着形成プログラム

児童養護施設への被虐待児の入所が増えていると報告されるようになって久しいが、さらに、軽度発達障害の子どもたちの入所も報告されるようになってきている。そのような状況で、職員と子どもたちの愛着形成への配慮はますます重要となってきている。その一方で、具体的にどのように愛着を形成していったらよいのかということに対しての戸惑いの声も多く聞くようになってきている。本研究では、昨年度の児童養護施設へのヒアリングなどを通して、児童養護施設における愛着形成プログラムの試案を作成した。なお、

これらの研究には、児童養護施設における愛着への対処の現状の調査（小林、2005）も参考にした。最終報告書では、ヒアリング調査も踏まえ、最終的なプログラムの提示を行なう。なお、児童養護施設における愛着形成プログラムという場合、施設全体として、どう愛着形成に留意しながら子どもたちとの関係を構築していくかという場合（施設全体の愛着の「器づくり」）と、職員自身が愛着という視点への理解を深め、援助技術として、愛着の視点を活用できるようにするという場合（職員個人の愛着の「器づくり」）の二つの意味を有している。本研究では、基本的に前者の場合を想定し、エクササイズをステージごとに入れることによって、後者の意味も付加した。

## A 児童養護施設における愛着形成プログラムの作成

### 愛着形成プログラム作成

#### 第1ステージ 愛着障害のアセスメントの理解と実際

- ・愛着障害徴候チェックリストのチェック
- ・日常生活場面及び危機的場面での愛着形成の視点

愛着を念頭に置いた支援を考える場合、入所している子どもたちすべてに対する愛着徴候チェックリストの施行が望ましいであろう。それらを踏まえ、愛着の形成に重要である日常生活場面及び危機的場面での安心感・信頼感の形成、相互性の醸成を心がけていく。以下に、徴候チェックリストの新版を掲載する。これは、オーランズらの許可を得て、日本語版を新たに作成したものである。

### 徴候チェックリスト（新版）（オーランズ&リヴィー 2006； 日本版 藤岡 2007）

#### 徴候チェックリスト

子どもの名前

日付

以下のことを記入してください。あなたの子どもに属するそれぞれの徴候についての適切な場所に印を入れてください。紙面のそれぞれについて、無、軽度、中度、重度の徴候のチェックをしたら、それについての簡単な短いコメント（子どもの行動など）を書いてください。

無            軽度            中度            重度

#### 行動

1. 衝動コントロールの欠如
2. 自己破壊
3. 器物の破損
4. 他者への攻撃性
5. 一貫して期待されることに応えない  
(宿題やお手伝いをしない、など)
6. 不適切な要求やしがみつきの
7. 盗み
8. あざむき（嘘、ずるさ）
9. 溜め込み
10. 不適切な性的行動や性的態度
11. 動物への残虐性
12. 睡眠障害

- 1 3. 遺尿や遺糞
- 1 4. 頻繁なルール無視（反抗的）
- 1 5. 多動
- 1 6. 異常な食習慣
- 1 7. 火や血、悪事への没頭
- 1 8. しつこくて無意味な質問や絶え間ないおしゃべり
- 1 9. 過覚醒（過敏）
- 2 0. 目新しさや変化における困難さ

#### 認知

- 2 1. 因果思考の欠如
- 2 2. 学習障害
- 2 3. 言語障害
- 2 4. 犠牲者（無力な者）としての自己認知
- 2 5. 自分が大事という偉そうな感覚

#### 情緒

- 2 6. 親（養育者）の言動に愛情を表現しない
- 2 7. 激しい怒りの表出（激怒）
- 2 8. 頻繁な悲しみ、抑うつ、無気力
- 2 9. 不適切な情緒的反応（場にそぐわない感情表現）
- 3 0. 著しい気分の変化

#### 社会性

- 3 1. 表面的な愛想や愛嬌
- 3 2. 親密さのためのアイコンタクトの欠如
- 3 3. 見知らぬ人への無差別的な愛情表現
- 3 4. 仲間関係の欠如または不安定さ
- 3 5. 制限や外からのコントロールに対する耐性の乏しさ
- 3 6. 人からの非難が好きでない、  
自分自身の間違いや問題で他人のせいにして責める
- 3 7. 他者を傷つける（加害、いじめ）、復讐
- 3 8. 他者から被害を受けやすい
- 3 9. 他者との信頼の欠如
- 4 0. 搾取的、操作的、支配的、しきりたがり

#### 身体

- 4 1. 不衛生
- 4 2. 慢性的な身体の緊張
- 4 3. 事故の起こしやすさ

- 4 4. 痛みへの高い耐性（がまん強さ）  
/ちょっとした傷で大げさに騒ぐ
- 4 5. 接触防衛（触られることをいやがる）
- 4 6. 遺伝的素質（実の親の素質を引き継いでいるところが目立つ）

#### 精神性・倫理

- 4 7. （生きることへの）意味や目的の欠如
- 4 8. 信仰、共感や他の精神的な価値の欠如
- 4 9. 悪事や人生の暗い側面への同一化
- 5 0. 自責や良心の欠如

#### 解説：愛着障害の6つの視点の解説

愛着障害の状態像は六つのカテゴリーに分けられる。それは「行動」「認知」「情緒」「社会性」「身体」「精神・倫理」である。以下、それぞれのカテゴリーにおいて具体的な場面を踏まえ見ていく（Levy, T.M. & M. Orlans 1998、藤岡 2003、ヘネシー澄子 2004、小林 2005、M. Orlans & Levy, T.M. 2006 参照）。

#### 1 行動（1～20）

愛着障害の子どもは反抗的で、攻撃的な様々な反社会行動を表すことが多いといわれている。またそれは破壊的、衝動的行動を伴う。衝動的で、考えてからの行動などができない。他人や自分の所有物を破壊したり、ほかの子どもたちや大人に対して衝動的に身体的な攻撃をしたり、攻撃的な言葉を言ったりすることはよく見られることである。そしてそれに歯止めがきかないのも特徴的である。時には自傷を伴うほど（カッティング、肌を焼く）の自己破壊行為も見られる。信頼や親密さが生まれる場を避ける、ほめられることをわざと避けるなど心理的な自己破壊的行動もとる。家の中や外における盗み・盗癖、確かな証拠があるにも関わらず虚言をする、自分のしたことに責任を持たず他人に転嫁するなど典型的である。また、宿題をしない、お手伝いをしないなど期待されることにわざと応えないようにしたりする。

ほかには動物への残虐性や火遊び、血への没頭、愛そうとする親や権威のある人に攻撃的、挑発的であるという点も挙げられる。これらの行動パターンを見るといわゆる「非行」の行動パターンと重なる部分が多くあることがわかる。低い自尊心や身体的な暴力による影響、愛されなかった過去が関係していると思われる。

このほかにも感情的な空虚さを満たそうとする欲求の反映での食べ物への異常な執着心や不適切な性行動・態度・関心を明らかに示す。食べもしないのに、自分の部屋に食べ物をもって行って隠し、溜め込んでしまう。睡眠障害も見られ、これには繰り返す悪夢や夜驚、睡眠パターンの中断、夜の夢遊歩行などが含まれる。また、遺尿・遺糞、意味のない問いへの固執と絶え間ないおしゃべりなどがある。過覚醒とは、いつも刺激に対して敏感で、きき耳をたてたり、いつもいろいろなところを見たりしてい

ることをさす。また新しい場面や変化が苦手である。新版では、この過覚醒というのが新たに加わった。

## 2 思考・認知 (21~25)

愛着障害の子どもたちは自己・他者・関係性・生活全般において否定的な内的ワーキングモデルを持っているといわれている。そのため自分自身、人間関係、人生に否定的な考えを持っていて、自分に自信がない。養育者のことは役に立たない、信頼できない、脅かされると認識しており、世界は安全でなく敵意があると知覚している。しかし、逆に無力さを感じるのを防御するための「自分が大事という偉そうな感覚」といった非現実的な全能さもある。また、愛着関係ができていれば「養育者がしっかり愛してくれた、だから自分はここから出発できる」という安全基地を持っており、いろいろなことにもチャレンジできるが、愛着障害のある場合、新しいことやリスクが多いことにはなかなか挑戦できない。

自分でした行動・選択がこのような結果を生んだというような因果関係で考えられないので、自分の行動に責任を持たず他人に転嫁する。この点は、愛着障害の子どもたちへの「帰結」というアプローチの必要性を示唆している。さらに、学習上の問題も顕著であり、早期の神経学的ダメージ（胎児アルコール症候群、養育上の失敗、身体的な虐待など）の結果だけでなく、それまでに受けてきた心理的な影響も表出される。忍耐力や集中力が低く、また、関係性の障害を基礎とした学習障害や言語障害が表れることもある。

## 3 情緒 (26~30)

愛着障害の子どもたちに共通する感情は激しい怒り、恐怖、かんしゃく気質、抑うつ・無力感である。少しのことでもかっとなり激しい怒りを表出するなど、自分自身の感情のコントロールがきかない。乳幼児期にきちんと関わってくれる養育者がいないと、自分の欲求を調整することができず、不安感をかき立てる。親のほうから近づいても、また親密さをあらわしてもそれに応えることができない。そのくせ、周りに人がいたりするとわざと親密であることを見せつけようとしたりする。

また愛着形成において不全状態にある子どもたちは、頻繁に情緒的に不安定になり気分がゆれて予測がつかない。学校でも昨日と今日とで気分が全く違い、別人のようだと言われることもある。養育者から長い間拒否されたり避けられてきたために、感情を確認したり外に出したりするという方法がうまくとれず、自分を制御したり癒す方法もわからない。そのため、一度泣き出したらなかなか自分からは泣きやむことができないというのも特徴の一つである。子どもたちの反応は0か100かとも言うように激しかったりあるいは全く何もないように振る舞ったりする。

## 4 社会性 (31~40)

本当の親密さや愛情をつなぐ能力、愛情を受けたり与えたりすることがうまくできず、頻繁に養育者、教師、きょうだい、仲間と葛藤を起こす。そして、支配的、操作的なやり方で他者と関わろうとする。そのため「共感する」ということができず、親しくなるために目と目を合わせるができない。人の目を見ないし、見られるのを嫌がる。平気で他害行為を行なう、友達の気持ちに共感できないため同年配の友達ができない。また、テレビとかで悲しい場面でみんなは泣いているのに、その子だけ笑ってい

たりすることがあるという不適切な感情表現がある。倫理観の欠如から良心が育っておらず、また人から情愛や愛情を受け入れず自分も与えないという特徴もある。さらに、養育者の愛情を「支配」として抵抗するが、見知らぬ人には表面的に、人の注意を引き、魅力的であり、無差別的に誰かれかまわず愛情表現をしてしまう。しかし、長期間の意味のある関係形成はなかなか成立しない。人のいうことが聞けず、ルールを守らない。ルールを勝手に自分に都合のよいように解釈してしまったりする。大人との関係は、いつも力関係のパワーゲームになってしまう。そこには、信頼を基礎とした関係がなかなか成立しない。自分のやったことに対してなかなか責任が取れず、問題がおきても自分が悪いとは思わず、他人のせいにしてしまう。他の人の境界（その人の世界）や欲求、希望などを尊重できず、身体的、言語的、性的に攻撃してしまう。その一方で、自分を「犠牲者（被害者）」の位置に置こうとする。自分がかわいそうな存在であることをいったりすることで、そのような点を示そうとしてしまう。

## 5 身体 (41～46)

愛着障害の子どもたちの精神的な悲しみ、苦しみ、恐怖、衝動的な痛みは身体的な症状となって現れる。不安や恐れへの抑圧への反応であるかのように、身体は硬直し、慢性的に緊張している。背中の辺りの慢性的な緊張感に驚くほど共通している。この点は、被虐待児の身体的・動作的な側面としての記述として注目すべき点である。また身体的接触を嫌がるが、この反応は人との接触に対する防衛と以前のトラウマに対する身体的な反応でもある。それまでの、愛情を与えてもらえず養育者に身の回りの基本的な欲求にも応えてもらえなかったという経験から、自分の身なりに無頓着である。そのため自分の外見や居室をほとんど自慢することはなく、シャワーや歯磨き、清潔な環境を維持することを拒否するため不衛生である。注意力が低いのでたびたび事故を起こし怪我をしやすい。そのとき小さい怪我は「かまってほしい」「見てほしい」という気持ちから、非常に大げさに表現する。しかし、一方で、深刻な怪我は強調されず、苦痛への耐性（一種の無感覚、解離）が見られる。このようなアンバランスさも特徴である。遺伝的素質（実の親の素質を引き継いでいるところが目立つ）とは、攻撃性、単極または双極性うつ、アルコール依存、精神病質、シャイネス（恥ずかしがり）、ストレス脆弱性、肥満傾向、糖尿病傾向、危険行為傾向、多動傾向などの側面であり、どの子どもというわけではないが、それらの可能性をアセスメントする。

## 6 精神・倫理 (47～50)

精神性 (Spirituality) は関係にまつわることであり、これらの子どもたちは、親密で永続的な関係ができず、良さや自己価値の感覚を感じるものがなく、私利を基本として行動する。精神的な関係を含む全ての個人的な関係から隔離され、断たれていると感じている。初期のマルトリートメントや崩壊した愛着は、「自分達の魂の傷跡」を子どもたちに残したままである。そのことで、精神的な理想や目的とうまく調和できていない。信頼、赦し（許容）、共感、寛大さとはかけ離れたままである。愛着障害の子どもたちは道徳的、倫理的な発達に損なわれている。ほとんどあるいは全く自責を経験せず、共感を欠いており、良心が貧弱にしか発達していない。進化の過程で奥深く根付いている家族、コミュニティ、相互依存、他者との協力への願望という感覚が発達していない。正と誤の違いを知っているが、人

とのかかわりを良好な方向へと導く事の成り行き（帰結）を考えたりすることがなく、他者へ関心を持たず、自分の行動に個人的な責任を持たず、誤りをほうを選ぶことを好む。自分の人生を悪いほうへ悪いほうへと導こうとしてしまうし、悪い側面ばかりを見ようとしてしまう。

## エクササイズ

### a 徴候チェックリストの作成

今関わっている子どもたちのなかで、特に対応に困っている子どもを3名あげ、まず、以下の徴候チェックリストによって、愛着障害の状況について、チェックしていく。ただ、愛着障害そのもののアセスメントではなく、愛着上の困難さを特定する（子どもの特徴を愛着の観点からみていく）ことを目的としたチェックリストの作成である。

b次に、日常生活場面と危機場面での愛着行動のアセスメントを行なう。その際、以下のような問いを上記の3人の子どもについて整理し、自分自身のかかわりを吟味していく。

## 日常生活場面と危機場面での愛着行動のアセスメント

### 日常生活場面

- ・ 普段の生活の中で気になる行動（ちょっとおかしいな、普通の子とは違うなと思われる 行動）はありましたか？
  - i) 睡眠（寝起き、寝かしつけ含む）
  - ii) 食事
  - iii) 学習
  - iv) 遊び
  - v) 入浴
- ・ それはどんな行動でしたか？
- ・ 具体的なエピソードはありますか？
- ・ その行動に対してそのときどのような対応をしましたか？
- ・ その理由は何ですか？
- ・ 結果はどうでしたか？（その時と時間が経った後の子どもの様子）
- ・ 愛着関係を築くために工夫したことはありますか？（日常生活場面での愛着形成）
- ・ それはどういうことですか？
- ・ その後の関係がどのように変わりましたか？
- ・ 子どもとの愛着に関して普段心がけていることは何ですか？

### 危機的場面

- ・ 子どもが次に挙げる場面に置かれているときのことについてお聞きします。
  - i) かんしゃくを起こしたとき



- ii) 落ち込んでいるとき
- iii) けんかをしたとき（友達、職員）
- iv) 人をたたいたり、物を壊してしまうとき
- v) 物を盗んだとき

- ・それはどんな行動でしたか？
- ・具体的なエピソードはありますか？
- ・その行動に対してそのときどのような対応をしましたか？
- ・その理由は何ですか？
- ・結果はどうでしたか？（その時と時間が経った後の子どもの様子）
- ・愛着関係を築くために工夫したことはありますか？（危機的場面での愛着形成）
- ・それはどういうことですか？
- ・その後の関係がどのように変わりましたか？
- ・子どもとの愛着に関して普段心がけていることは何ですか？

## 第2ステージ 施設職員自身の愛着関係の見直し

次に自分自身のライフヒストリーを振り返りながら、子どもたちとの関係作りなどを見直していく。  
今回、新たに日本版人生脚本を作成した。

- ・人生脚本の活用（日本版人生脚本）

エクササイズ 日本版、人生脚本を作成し、自分自身の愛着形成を内省する、あるいはグループで、自分自身の愛着関係について、言葉にできる範囲で、言葉にしていく。守秘が守られるグループ作りが前提となり、そうでない場合は、語らない自由が保障されていることが前提となる。また、一人でするには不安が伴う場合には、必ず、誰かがそばにいてくれることによって、安心して、自分の内面にふれることができる。このように施行に際しては、留意が必要である。

人生脚本（児童福祉施設職員用 改訂版）（藤岡，2006）

この質問は、リヴィーらによって開発された人生脚本を、児童福祉施設職員用に改訂したものです。施設で関わる子どもたちとの愛着関係を深めていくために、まず、あなた自身が生まれ育った家族でのさまざまな課題についての気づきを深めるために使用するものです。

1. あなたはどこで育ちましたか？
2. あなたが育つ過程で、同じ家に住んでいたのは誰ですか？
3. きょうだいを表現する形容詞を、4つから6つ表現してください。

1	2	3
1.	1.	1.
2.	2.	2.
3.	3.	3.
4.	4.	4.
5.	5.	5.
6.	6.	6.

今の年齢は？

結婚歴は？

こどもは？

仕事は？

今はどのように関わっていますか？

4. 子どもだった頃のあなたの目からみて、両親を4から6の形容詞をつかって表現して下さい。

お母さん： \_\_\_\_\_

お父さん： \_\_\_\_\_

(どのように呼んだか)

(どのように呼んだか)

1)

1)

2)

2)

3)

3)

4)

4)

5)

5)

6)

6)

どちらが親しみやすかったですか？ それはなぜ？

お母さんの職業は？

お父さんの職業は？

お母さんの両親について書いて下さい。

お父さんの両親について書いて下さい。

祖父

祖父

祖母

祖母

5. お母さんがお父さんと結婚した理由は？（推測でも良いです）

お父さんがお母さんと結婚した理由は？（推測でも良いです）

次の事柄や状況に両親はどのように向きあっていましたか？

葛藤（お互いの意見不一致など）：

気持ち：

あなたが（子どもの時）いやな思いをしたり、傷ついたりしたとき、誰のところにいきましたか？

子ども（たち）のしつけについてどのような考えを持ち、行動していましたか。：

お母さん：考え

行動

お父さん：考え

行動

両親のお互いの関係で、誰が力を持っていましたか？

6. 両親との関係は長い年月の中で変わってきましたか？

子どもの時に、親以外で、誰か親しみを感じる人はいましたか？ あなたにとってとても大事な人は親以外でいましたか？

7. あなたを表現する4から6の形容詞を書いてください。

子どもの時のあなた

今のあなた

1)

1)

2)

2)

3)

3)

4)

4)

5)

5)

6)

6)

8. 子どもだった頃、何か大きな出来事がありましたか？

9. あなた自身についてお母さんはいつも何と言っていましたか？ 生き方については？

それに対してのあなたの反応は？同意したか反発したか教えてください。

あなた自身についてお父さんはいつも何と言っていましたか？ 生き方については？

それに対してのあなたの反応は？同意したか反発したか教えてください。

10. 女性や男性について、お母さんから何を学びましたか？

女性は...

男性は...

男性や女性について、お父さんから何を学びましたか？

男性は...

女性は...

11. 子ども時代に好きだったヒーローあるいはヒロインは誰でしたか？

12. 子どもの頃好きだったお話やおとぎ話は何ですか？

13. 生涯を通じて、大切だった恋愛関係を4から6の形容詞を使って表現してください。

1) _____	2) _____	3) _____
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6

そのときの年齢：

継続期間：

どのように別れたか：

14. お父さん、お母さん、あなた自身の、墓石に書きたいこと、または追悼のメッセージを書いてください。

お母さん：

お父さん：

配偶者：

あなた自身：

なお、人生脚本については、最近新しいものも開発されている。本報告ではそれについても併記することにする。なお、簡略新版は、オーランズらの許可を得て、日本版として新たに加筆・修正し、作成しなおしたものである。上記の完全版とあわせて利用することが望まれる。

人生脚本・簡略新版（オーランズ&リヴィー 2006； 日本版 藤岡 2007）

この質問は、リヴィーらによって開発された人生脚本を、児童福祉施設職員用に改訂したものです。施設で関わる子どもたちとの愛着関係を深めていくために、まず、あなた自身が生まれ育った家族でのさまざまな課題についての気づきを深めるために使用するものです。

1. あなたのお母さんやお母さんの養育者を表現する言葉やフレーズを4つから6つ表現してください。もしあなたの子ども時代にとっても大事な役割を果たしたのが継母や祖母だったら、その人たちのことを表現してみましょう。

お母さん（または：\_\_\_\_\_）

\_\_\_\_\_（どのように呼んだか）

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)
- 6)

2. あなたのお父さんやお父さんの養育者を表現する言葉やフレーズを4つから6つ表現してください。もしあなたの子ども時代にとっても大きな影響を与えたのが継父や祖父だったら、その人たちのことを表現してみましょう。

お父さん（または：\_\_\_\_\_）

\_\_\_\_\_（どのように呼んだか）

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)
- 6)

3. 子どもの頃のあなたと今のあなたを表現する4つから6つの言葉を書いてください。子ども時代にあなたが自分のことをこんなふうに見ていたというのを表現してみてください。

子どもの時のあなた

今のあなた

- 7)
- 8)
- 9)
- 10)
- 11)
- 12)

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)
- 6)

4. あなたのきょうだいを表現する4つから6つの言葉を書いてください。義理のきょうだいのことでもかまいません。

1	2	3
1.	1.	1.
2.	2.	2.
3.	3.	3.
4.	4.	4.
5.	5.	5.
6.	6.	6.

5. あなたのことやあなたの生き方についてお母さんはいつも何と書いていましたか？  
それに対するあなたの反応は？同意したか反発したか教えてください。

6. あなたのことやあなたの生き方についてお父さんはいつも何と書いていましたか？  
それに対するあなたの反応は？同意したか反発したか教えてください。

7. 女性（母親という存在、妻という存在）について、お母さんから何を学びましたか？

女性：

母親：

妻：

8. 男性（父親という存在、夫という存在）について、お父さんから何を学びましたか？

男性：

父親：

夫：

9. あなたの両親は、葛藤（お互いの意見不一致など）や関わり（コミュニケーション）、互いの気持ちにどのように向きあっていましたか。

両親のお互いの関係で、誰が力を持っていましたか？

誰が、子ども（たち）のしつけをよくしましたか。

このようなことは、子どもだった頃のあなたにどのような影響を与えましたか？

また、今のあなたの子育てにどのように影響を与えましたか？

10. あなたの家族の中で、アルコールや薬物被害はどんな役割を果たしましたか？

11. あなたが（子どもの時）落ち込んだり、いやな思いをしたり、病気になったり、傷ついたりしたとき、誰のところにいて、慰められたり、助けってもらったりしましたか？

どんなことがそのとき起こりましたか？

1 2. 生涯を通じて、大切だった恋愛関係を持てた人の名前を（記号でもよいので）書いてみてください。それぞれの人のことを4つから6つの言葉を使って表現してください。あなたの今のパートナーのことも含みます。

1) _____	2) _____	3) _____
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6

1 3. 子ども時代に好きだったヒーローあるいはヒロインは誰でしたか？スポーツ選手でも、歴史上の人物でも、家族のメンバーなどでもかまいません。

どうして好きでしたか？

1 4. お父さん、お母さん、あなた自身、配偶者（パートナー）のために墓石に書きたいこと、または追悼のメッセージを書いてください。

お母さん：

お父さん：

配偶者（パートナー）：

あなた自身：

1 5. あなたの子ども時代の人との関係や体験が、大人になってからのあなたにどのように影響していると思いますか？ 自分自身のことをどのように考えるのか、あなたのパートナーや子ども（たち）とどのように関わるのか、などに影響していることを考えてみましょう。

変わりたいとあなたが思ったのは、どんな行動だったり、人との関わり方だったりしますか？

変わるのはどのように難しかったですか？

### 第3ステージ 施設職員のパートナーシップの見直し

- ・ 次に、チームを組んで、子どもたちへと対処できるための同僚とのパートナーシップ、上司との関係、管理職との関係などを見直していく。その際、愛着コミュニケーション訓練の施設職員版の適用、バーンアウト、共感疲労尺度の活用が有効となる。
- ・ 愛着コミュニケーション訓練の施設職員版の適用
- ・ バーンアウト、共感疲労尺度の活用

#### エクササイズ

##### ①愛着コミュニケーション訓練の施設職員版の適用

愛着コミュニケーション訓練のルールを理解したうえで、以下のテーマで、話し合いを持つ。愛着コミュニケーション訓練については、本研究の夫婦のための愛着コミュニケーション訓練を参照。

「今対応に困っている子どもについて」「自分の力不足を感じたときに、同僚に助けを求められますか」「上司とは話しやすいですか」「施設管理者は、職員に理解がありますか」「同僚、上司、施設管理者に言いたいことはありますか」

以上のようなテーマを設定して、愛着コミュニケーション訓練を行なう。

②バーンアウト、共感尺度の実施を通して、子どもたちに向き合う際の自分自身を振り返る。なお、尺度は、藤岡（2006g）のバーンアウト、共感疲労、共感満足を使用する。

### 第4ステージ 施設職員と入所児童との愛着形成プログラム

- ・ 日本版 HNP（抱え養育過程）（\*）の施設への適用
- ・ 日常生活場面及び危機的場面での愛着形成の視点

#### \* 日本版 HNP（抱え養育過程）の解説

日本版抱え養育過程（HNP）では、修復的愛着療法で従来から行なわれているような実際の抱っこポジションは取らない。欧米人のような身体的な接触を、日常的な生活の中で多くはとらない日本人にとって、急激な身体的な接近、接触は、驚異的な浸入感を与えてしまうことが懸念される。また、たとえ同性であっても、恥ずかしさ、てらい、などのさまざまな感情を誘発してしまう。特に、自我機能が脆弱な場合、抱っこポジションによる急激な退行の促進は、自己制御感をもてないまま、次々と感情が引き出されてくる可能性がある。修復的愛着療法に習熟したセラピストがまだ日本で育っていない状況において、形だけ真似するのは、あまりに大きなリスクを背負うことになるだろう。筆者（藤岡）は、日本版抱え養育過程について、きわめて慎重な姿勢で臨むことを考えている。

#### 心理的なホールディング・ナーチャリング・プロセス（日本版；藤岡，2006）

対象となるクライアントは、ソファに横になり、横臥姿勢にはなるが、「抱っこ」は行なわない。これは、児童に対してのセッションでも同様である。セラピスト、あるいは援助者は、床にひざをついて、クライアントの顔がよく見える位置に座り、アイコンタクトを取っていく。また、



身体接触も、緊張が静まらない場合に限って行なうことし、クライアントの許可を得た上で、肩に軽く触れる程度にとどめることにする。片方の手で、セラピストに近いほうの肩に軽く触れ、クライアントの緊張感をゆっくりと感じ取りながら、軽く下方向に力を入れて、クライアントの緊張が静まっていくのを味わう。落ち着いてきたことを確認したうえで、手をゆっくりと離していく。このあたりの技法上の工夫については、臨床動作法のリラクゼーションが大いに参考になる。

このような体勢でも、十分に意味のある退行が促進され、セラピストとの愛着の形成が促進されると考えられる。その上で、愛着の一年間のサイクル、クマのぬいぐるみを使った「内なる子どもの隠喩」、(複数のセラピストがいる場合には) 役割演技なども含めた心理劇などのセッションを行なうことができる。なお、これらの技法は、膨大な紙面を必要とするため、別の機会に詳しく報告するつもりである。

#### エクササイズ

日常生活場面及び危機的場面での愛着形成の視点を検討するために、「子どもとの愛着に関して普段心がけていることは何ですか？」というテーマで話し合いの場を持つ。

日本版 HNP (抱え養育過程) については、後の里親支援における愛着形成プログラムでも活用される。施設の中で実際に行なっていくには、施設職員の修復的愛着療法についての研修が不可欠であり、上記のような技法上の工夫を踏まえ、さらに適用上の工夫も考えていかなければならないだろう。今後の課題である。

#### 第5ステージ 愛着障害の再アセスメント

- ・愛着障害徴候チェックリストの再チェック
- ・日常生活場面及び危機的場面での愛着形成の視点の再活用

#### エクササイズ

上記のステージを踏まえ、再度、アセスメントの際にあげた子どもについて、第一ステージと同様のチェックシートを書き込み、自分の中での変化を、グループの中で話題にしていく。あるいは、個人の中で、変化についての振り返りを行う。

#### B 愛着形成プログラムプログラムの実施に関する報告

以上のプログラムのうちの一部は、すでに、藤岡の指導のもと、小林(2005)が検討している(詳しくは、小林, 2005)。すべてのプログラムについての検証は今回行なうことができなかったが、児童養護施設の職員に対してのヒアリング調査を踏まえ、このプログラムの持つ可能性について検討することができた。日ごろの子どもたちとの愛着形成についてのそれぞれの職員の工夫があり、今後、このような工夫の蓄積が待たれるところである。また、徴候チェックリストをすることで、子どもた

ちのアセスメントを施設内で改めてすることができる。さらに、ケアワーカーと心理職（及び施設管理者）が、子どもたち一人一人の徴候チェックリストを共有することで、生活のなかでサポートできる子、心理面接を通して関わったほうがよい子など、施設内での対応についての見通しを持つことができよう。

### 3) 子育て支援における愛着形成プログラム

これは、里親支援における子育て支援愛着ペアレンティングにも活用される。ここでは、子ども家庭支援センターなどにおける子育て広場、子育てサークルなどでの活用、親への支援プログラム、児童福祉施設におけるファミリーソーシャルワーカーによる親支援などにも活用されるよう検討を加えているものである。以下に、その結果を示す。

#### A 愛着形成のためのペアレンティング・プログラムの作成

これについては、すでに藤岡による多くの報告があるが（藤岡, 2001-2006）、それらを参考に以下のように整理してみる。その際、テリーら(2006)も合わせて参考にし日本版を完成させた。なお、日本版作成に際しては、ヘネシー澄子女史による通訳原稿も参照させていただき、修正・加筆した。さらに、エクササイズの箇所については、すべて今回新たに作成した(この箇所の文責はすべて、藤岡にある)。なお、これらは、子育て支援のプログラムにも有効であり、かつ里親支援についても有効性を発揮するものと考えられる。(本プログラム作成にあたって、わかりやすい翻訳原稿を作成されたヘネシー澄子女史に心から謝意を表します。)

#### 日本版・子育て支援愛着ペアレンティング・プログラム

##### 第1ステージ 「癒しの親」の土台づくりー心理教育的側面の学習

愛着の観点からの子育て支援、子育ての見直し(心理教育的側面の学習)

- ・子育て場面における愛着の観点
- ・癒しの親たちとはー「毅然としていて、愛情深く、恐れを感じさせることなく、安全感を促進し、(態度などが)一貫していて、(子どもから見て、行動が)予測でき、子どもの発達段階に適した環境を提供してくれる人たち」
- ・癒しの基礎原則

子どもは、自分たちの生活に影響を与える社会システムー家族、地域社会、学校、児童福祉システムーの文脈の中でしか理解できず援助できない(システムから切り離しては理解と援助は不可能である)

##### エクササイズ

話を聴いて、「わかること」「わからないこと」の整理。グループで出し合う。自分たちの子育ての中で、何を知りたいのか、何がわかりたいのか、何ができるようになりたいのか、を考えてみる。

##### 第2ステージ 自己覚知の開始ー自分自身の愛着関係の見直しと、子どもへの関わり方の気づき

愛着に関する考え方ー自分自身の愛着歴、親密な人間関係に関する課題ーなどが親の子どもの愛着関係の型(安定した愛着・不安定な愛着など)を決定する。

- ・鏡を見て自己覚知をすること
  - 自分の内的ワーキングモデル(自己・保護者・人生に対する信念)
  - 感情的反応・引き金

身体で表現していること

(問題の)処理方法

- ・子どもに「安全基地」を与える

情緒的な関わりができる

(子どものニーズに)敏感である

子どもの今の行動とその下にあるニーズに応答的である

良い援助者

忍耐強い

- ・癒しの環境を築き、保ってくれる

癒しの環境とは一子どもたちが癒され学ぶことが出来る感情的、社会的、倫理的な環境

愛情と(行動の)限界のバランスを提供する(限界設定の重要性、「枠」の意識化)

(子どもの問題を)危機としてより、良い機会としてとらえる態度

- ・(問題が起きてから)反応するのではなく、それを見越して行動している

いつも(こころの)準備が出来ている

- ・子どもの悪い行動に焦点をおかずに、そのもととなっている(核となる)信念をわかろうとする

- ・(子どもの反抗などを)自分に向けられたものとして、受け取らない

- ・子ども側で用意している脚本を強化しない

- ・目標を、子どもをコントロールするのではなく、子どもとつながる(関係を結ぶ)ことにおく

- ・効果的なコミュニケーションの方法、ストレスの対処法、感情や葛藤の管理の仕方、問題解決法、そして自分と他人にどのように気使いするかなどにモデルを示す

エクササイズ

上記のことを念頭に、ふだんの自分の子どもへのかかわり方を見直し、自分の育てられ方へのつながりを意識化する。

テーマ「子どもと接していて困ること」

「子どもに腹が立つとき」

「子どもの反抗」

「自分の育てられ方」

「子どもに手を上げてよいか」などを、とりあげ、グループで話し合う。

### 第3ステージ 愛着を深めるコミュニケーションーコミュニケーションの実習ー

相手のところに寄り添う傾聴のしかたを、実習を通して学習する。

- ・コミュニケーション技法の整理・実習

共感を持つてのぞむ

人を裁かない態度

非言語的なメッセージに注意を払う

リラックスして、いろいろなことを吸収しようとする